

保育理念	大事な時期だからこそしっかり育てたい	本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”の積極的活用</li> <li>・組織強化のための内部研修の充実と人材育成</li> <li>・卒園児・卒園児家庭を含めた地域支援及び、貢献活動の継続</li> </ul>
------	--------------------	----------	--

	項目	内容	目標・計画	今年度の状況と課題	来年度の目標
1	事業	就学前の子どもに関する教育・保育	生き抜く力の基礎を持つ	以前のような保育活動に少しずつ戻しながら新たな保育を作り上げてきている状況。子育てが孤立しがちなぶん、保護者の心情に寄り添い、園全体でのサポート体制や連携を大切にしてい	子どもの育ち、情緒の安定を図るためにも継続して“10の姿”の活用を継続していく。専門機関の助言を参考にしながらより一層の、職員の内部研修の充実を図っていく。
		子育て支援及び地域子育て支援事業	充実した子育て環境の構築		
		病児保育事業	保護者の子育てと就労の両立支援		
		特別支援児の教育・保育	特別支援教育サポート事業の実施		
		小学校との連携及び就学児支援	円滑な接続に向けた工夫		
		地域貢献活動	地域行事へ参加し園への理解を深める		
2	事業を支える分野別取組み	運営：運営規程、健康管理、虐待防止他	保幼小連携について園児のみならず保護者を巻き込んだ活動の推進	マニュアルの改善をおこなうことで全職員でより一層の危機感をもって保育に取り組むことが出来た。専門機関への連携を密にしていく	支援や連携など専門機関の助言を積極的に取り入れて保護者の心情に寄り添い丁寧な関わりをしながら保育の質の向上に努めていく
		教育・保育：環境設定、食事提供他	支援児の保育環境を豊かにするための専門機関からの指導		
		支援：保護者支援、特別・地域支援他			
		連携：保幼小連携、地域や専門機関等			
3	職員自己点検	教育・保育	職員の専門性を高めるために、外部への研修も含め多くの研修に参加する	職員連携において不適切保育の認識の違いなどでの戸惑いがあり、自己評価が横ばいの数値となった。学年での話し合いを取り入れることで意識の向上も見えてきた。	話し合いの機会を増やし、全職員で連携がとれるよう相談しやすい環境を整えていくと共に、知識を高められるような実践的な指導も取り入れ不安を取り除いていく
		子どもとの関わり			
		子育て支援			
		職員連携	日常的に職員同士が保育教諭の質の向上を目指して話し合う		
		自身について			

総評	今年度の状況と課題	来年度の目標	来年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”の積極的活用</li> <li>・保育・教育に携わる職員が子ども達と共に学び、成長する組織を目指す</li> <li>・卒園児・卒園児家庭を含めた地域支援及び、貢献活動の継続</li> </ul>
	柔軟な対応を図る事で子どもの育ちを考えながら保育を実施する事ができた	最善な方法を常に取り入れた保育環境を構成する事で、保育の質を高め、保育理念の達成に努めていく		